

都道府県名：奈良県 団体名：公益財団法人吉野川紀の川源流物語

地 域

紀伊半島の中心付近、奈良県南部に位置する川上村は、和歌山県へと注ぐ紀の川（奈良県での名称は吉野川）の源流にあたります。「吉野林業」の発祥地であり、大阪市よりもひとまわり大きい村の面積の95%が山林です。一時期8,000人近くあった人口も、今では1,600人台、高齢化率は52%超の過疎化が急速に進む村です。村では平成25年度より運用を開始した大滝ダムとともに今、樹と水と人の共生をめざした「水源地の村づくり」を進めています。「かけがえのない水が生まれる場に暮らすものとして、下流にはいつもきれいな水を流します」をはじめとする「川上宣言」を発し、その具現化に取り組んでいます。

経 緯

- 平成14年度 本財団が設立され、最上流部にある740haの村有の原生林と、ビジターセンターとなる「森と水の源流館」を管理運営し、ここを拠点にさまざまな交流事業をスタートしました。
- 平成20年度 利用者10万人を達成しました。平成24年度末には164,000人を超えています。
- 平成24年度 公益財団法人吉野川紀の川源流物語へと移行設立しました。

功績内容

河川や県内水道、農業用水の届く流域平野部の住民に向け、原生林ツアーや、一般参加による観察会形式の環境調査、また水源地域の豊かな自然の大切さと、源流域に残る文化や人々の暮らしの技や知恵を『源流学』と名付け、その体験を呼び掛けています。特に子どもたちに向けた森林環境教育では、奈良県・和歌山県内の小学校の受け入れや「出張源流教室」を届けています。水源地域から都市部の人々に、命の源となる大切な水を守り、育むためには、「コンクリートダムの貯水機能」と「水源林の涵養機能」の両方の役割が必要であることと、自らのかわりを考えることを伝え続けています。



「水源地の森」(原生林)ツアー



森林環境教育体験プログラム



森と水の源流館



森づくり活動



地元住民の協力で『源流学』体験



「出張源流教室」